

「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」

1. 審議の方向性

「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」という諮問事項に関し、北区の特性として子どもが多い点や集合住宅が多い点、また北区の防災の取組の視察の感想や意見等に注目しながら、以下の3つの方向性をもとに審議をすすめていく。

①子どもが参画できる防災の取組

八下中学校の防災講座の取組の視察から、“災害時の中学生の力”に注目し“避難所運営の手伝い”や、“災害時の中学生としての家庭での役割や地域での役割を考える講座を”などの感想や意見があった。防災の取組において中学生を中心とした子どもが知っておくべきことや担う役割など、子どもが参画できる取組について検討する。

②集合住宅における防災の取組

集合住宅の比率が高いという北区の特性を踏まえて実施したグランアベニュー北花田の防災の取組の視察から、“マンション防災会の取組を他のマンションにも広めることが課題である”、“防災対策は、戸建住宅と集合住宅とでは異なるので、実態に合わせてそれぞれの状況に応じた防災訓練を行うべき”など意見があった。集合住宅における防災対策の効果的な取組について検討する。

③北区全体での防災意識の向上のための取組

“防災訓練に関心がないのか若い世代の参加が少ないように思われる”“保護者と子どもと一緒に訓練を体験できるなどの企画があれば”などの意見があった。防災についてより多くの世代が関心を持ち、担い手を次世代に引継ぐためにも、いかに北区の住民1人ひとりが、災害についての自助・共助の意識を向上させ、自ら行動を起こしていくか、そのための効果的な取組について検討する。